

第7次別海町総合計画見直しに係る
**団体等ヒアリング調査
結果報告書**

令和6年7月



総務部総合政策課

目次

調査結果の概要	1
産業・経済関係のまとめ	2
福祉関係団体のまとめ	8
教育・文化・スポーツ関係団体のまとめ	15
まちづくり関係団体のまとめ	20
青年・女性関係団体のまとめ	24
町内会のまとめ	28
【参考】調査実施団体	32
調査実施団体一覧	33

調査結果の概要

現在の状況について

① 団体の現在の活動状況について

- 搾乳ロボットなどの ICT 機器の導入が進み、組合員の労働負担軽減・省力化に伴い飼養管理の高度化が図られてきた。
- 一方で、ICT 化による農作業負担軽減や効率化は、現場まで届いていない例も見受けられる。
- 近年の酪農情勢の不安により離農が加速し担い手不足や地域コミュニティの崩壊が懸念されている。
- 漁業活動は、多様で、安全な水産物の供給拠点として重要。
- 秋サケの減少、海水温上昇、燃料・資材の高騰、中国の禁輸などで漁業生産活動は厳しさを増している。
- 人手不足解消のために林業学校のインターンシップを受け入れ、作業軽減や林地未利用材の利用を促進。
- 観光客の高齢化に対応し、バリアフリー施設を整備し、若年層を呼び込むための SNS 施策を推進。
- 観光施設のキャッシュレス化の推進が必要。
- 会員間の情報交換や地域会議への出席を促進。
- 少子高齢化により農業者数（戸数）減少が加速化し、耕作放棄地発生が目の前に来ている。
- 酪農業界で働く女性のスキルアップとモチベーション向上を目的としたイベントを開催。
- バイオマス産業都市構想を推進し、バイオマスの有効活用を広く進め、脱炭素への取り組みを強化する。
- 近年では地域の教育機関地域教育機関との連携した活動をより一層進めたいと考えている。

② 別海町の良いところ（魅力や特徴）

- 自然が豊かで、希少な動物が生息する野付半島がある。
- 防衛予算やふるさと納税による財源確保から、町内産業の振興や子育て支援等の対策が期待される。
- 海と山があり、グルメが豊富。野付半島など景勝地も多い。
- 空港からの交通の便が良く、福祉も充実。食材の鮮度も高い。
- 一次産業が主流で、農業・漁業・林業が共存し、盛んである。
- 生乳生産量日本一の町である。
- 四季折々の風景を楽しめる。
- 大自然の中で野生動物と共存し、水産資源も豊富。
- 海産物、乳製品など食材資源に恵まれている。
- 街並みが美しく、食べ物が美味しい。

③ 別海町の物足りないところ（気になるところ）

- 人口の誘致。
- 若い労働力が不足。
- 主要道路での風景の単調さや雑草の問題。
- 人工林の成長が悪く、森林が小規模かつ分散している。
- デジタル化が遅れ、野付半島の観光交通手段が不足している。若者向けの観光地も不足。
- 公共交通機関が弱く、町が広大すぎる。
- 第1次産業への優遇や支援拡充が必要。
- 子育て世代が安心して働くために必要な施設の不足。
- 商業施設や宿泊施設の不足が課題。
- 医療・福祉関連の充実が求められる。
- 町のブランド力向上や魅力の発信不足。
- 豊かな自然や産業を宣伝し、町の魅力を広める努力が必要。
- 休日に開店している店が少ない。
- 若者の出会いの場が少ない。
- 主体性や実行力。

④ 活動をする上での悩みや課題

- 飼料・資材費の高騰による経営悪化。
- 漁業資源の減少、漁業者の高齢化。
- 燃料や飼料の高騰は、経営規模に比例して影響が大きい。
- 産業に携わる職員の不足。
- 中国の禁輸や気候変動の影響。
- 人手不足で作業者が減少し、現場作業が困難に。
- 町単独での観光客誘致の限界や会員の高齢化も課題。
- 新規就農等でのイニシャルコストが高すぎる。
- 酪農所得の悪化と新規就農者の不足。
- 就農候補地の確保と研修生の増加が必要。
- 実習施設の老朽化と研修生の不足。
- 食品残渣や家畜ふん尿の有効活用が必要。
- 生産費が収益を上回り、経営が困難。
- 予測できない気候変動。
- 酪農業のイメージ向上と新規就農者の増加が必要。
- 環境負荷軽減や資源循環の推進が重要。
- 町の支援や環境付加価値の開発が必要。
- 遊休農地の発生や有効活用が課題。

⑤ 町の事業（施策）に関する現状認識や課題など

- ふるさと納税の返礼品として秋サケ、ホタテの加工品が提供されている。
- 野付半島には廃漁船が多く、景観対応として費用の支援が必要。
- 生産効率と付加価値向上のために機器導入を検討中。
- 漁具（船外機）などの補助制度の検討を希望。
- 町有林の施業において、施行地への侵入や防風林の管理に関する課題がある。
- 農泊や漁の見学などの受入者が不足しており、行き詰まりを感じている。
- ふるさと交流館の今後の気になる。
- 昨年実施された水道料の減免は好評であった。
- 女性のコミュニティが少ない。
- 防災対策。
- 就農希望者への支援策の拡充。
- 郊外の廃屋処理や町外から移住した女性従業員のコミュニティの形成に関する提案がある。
- ゼロカーボンに向けた町全体の方向性が必要で、行政と民間の協力も必要。
- 経済団体個々の構成員などから意見を述べる機会を設けるなど、町民・企業者の考えを反映できるような場を設けてほしい。
- 町内宿泊施設、特に別海地区における宿泊地の不足は大きな問題であり、観光的な要素だけでなく、商用利用の際にも不足を感じているため、民間投資が進むような支援策を希望する。

今後の活動について

⑥ 団体の今後の活動・新しい取組予定や新しい事業展開

- 加工機器や施設の更新が必要。ふるさと納税品の生産効率向上のため補助金・支援を要望。
- ゼロカーボン目標に向けて木質バイオマスボイラー導入提案。
- 観光施設価値向上のため、打瀬舟の設置やデジタルマップ導入などの計画。
- 牛乳消費拡大やJ Aブランド構築に向けた取組み。
- 耕作放棄地発生防止のため第2作物導入や国のみどり戦略に対応していく。
- ゼロカーボン勉強会や町の企業参加促進を計画。
- バイオガス発電プラントのため、行政と連携も含めた様々な取組みを行っていききたい。

⑦ 団体が思い描く町や地域の理想の姿

- 町内での便利な生活環境の維持を目指す。
- 基幹産業の発展から人口増加や活気あふれる地域。
- 秋サケの資源回復により活気づく浜。
- 持続可能な農業に向けてバイオガス発電や消化液の有効活用。
- エネルギー資源を作り出す地域。
- 女性が酪農現場で活躍できる町。
- 全ての町に関わる者が手をつなぎ、自然豊かな環境を保ち、ゼロカーボン推進と町ブランド力の確立。
- 町民が誇りを持ち、観光地化。老若男女が楽しめるおしゃれな町づくり。
- わくわくする町。
- 教育、文化意識の高い町。
- 子どもから年寄りまで笑顔になれる場所。

町の取組への希望について

⑧ 活動の課題解決のため必要となる町の支援

- 新規就農者への助成金拡充と後継者対策。
- 加工機器の導入支援と廃船処分費の補助。
- 漁具（船外機）などへの補助制度検討。
- 移住者への住居提供や支度金支給。
- 観光施設デジタル化支援。
- ふるさと納税や予算を無駄なく利用してほしい。
- 既存酪農家の後継者への助成。
- 酪農女性の交流イベント支援。
- 環境負荷軽減への助成金。
- 新しいことに取り組める機会を継続し、社会活動に取り組む町民を増えるような意識の高揚機会を設けてほしい。
- 新卒雇用に対する支援と併せた、既卒者への支援。

⑨ 町の施策に期待することなど、各事業（施策）に関するアイデア

- 酪農学園大学の森林を活用した学園と地元学校の交流活動。
- 6次産業の推進と道外での商品名の確立。
- 宿泊割引の効果的な利用方法の提案。
- 酪農振興に関する活動全般の支援。
- 持続可能な社会を目指し、町を中心に地域を盛り上げる取り組み。
- 部署を横断するような取組みに期待する。
- 積極的に外貨をもたらす業態への支援について、行政と民間の連携体制を設けてほしい。
- 一次産業から派生する産業活動は、より一層振興する必要がある。
- 別海市街地の街路景観整備は、町民を巻き込んで進めてほしい。

その他自由意見

⑩ その他意見・要望

- 補助金の活用でふるさと納税に貢献したい。
- 矢臼別演習場周辺の傾斜地や狭い土地、湿地などは、植林して緩衝地帯として活用できないか。
- 防音林は手入れ不足で倒木や立ち枯れが生じ、効果が損なわれる懸念がある。
- 道路の北側に防雪林を設置して吹き溜まりを低減し、除雪費用の抑制を検討できないか。また、道路南側の立木を伐採して道路の凍結を抑制し安全確保ができるのではないか。

福祉関係団体のまとめ

現在の状況について

① 団体の現在の活動状況について

- 物価高騰による運営費の圧迫や会員の高齢化により大きなイベントが困難になっている。
- 事業で個人の自家用車を借り上げており、免許返納や家族からの運転を止められる人が増えている。
- 会員や利用者、職員の高齢化が進行中で、健康維持や交流が重要と考えている。
- 電子決済の導入や LINE の活用などの取り組みを検討中。
- 介護や健康に関する研修会や交流会を定期的に行っている。
- 悪徳商法から町民を守るための街頭啓発や啓発物の配布を行っている。
- 牛乳・乳製品の消費拡大や在宅介護者支援などの活動を行っている。
- 会員数や事業参加者数が減少しており、地域の活性化に向けて検討が必要。
- 開店した施設では、地域住民の交流や相談の場を提供している。
- 運営にあたっては、小中高校生から高齢者まで幅広い年代のボランティアに恵まれておりスタッフも充実している。

② 別海町の良いところ（魅力や特徴）

- 自然が豊かで美味しい食材が豊富にある。
- 住民同士のつながりが強く、地域コミュニティが盛ん。
- 福祉サービスが充実しており、住民の生活支援に力を入れている。
- 一次産業（酪農や漁業）が盛んで、地域経済に貢献している。
- 市街地がコンパクトで、歩行者にやさしい環境が整っている。
- 活動施設が整備され、助成金が活動をサポートしている。
- バリアフリー化された施設があり、地域の誰もが利用しやすい。
- 地域のまとまりがあり、住民自治組織が活発。
- 福祉や医療サービスが力を入れて提供されている。
- 入浴券、バス・ハイヤー券、福祉灯油といった福祉に関する助成が多い。
- 自然を活かしたキャンプ場や観光スポットがあり、地域の魅力を発信している。
- 子どもへの支援や福祉施策が充実している。
- 商工業においても地元発注への配慮が行われている。
- 別海町はきれいだという話を聞くことが多い。

② 別海町の良いところ（魅力や特徴）

- 地域住民が清掃や除雪などの活動に積極的に参加している。
- 地域の食材や観光資源が豊富で、ふるさと納税も人気。
- 町民同士の垣根が低く、関わり合いの機会さえあれば交流が生まれやすい。
- 公益的な活動に対して理解が得やすく、事業所等の支援も積極的。
- 機会があれば地域のために力になりたいという人たちも多い。

③ 別海町の物足りないところ（気になるところ）

- 遠隔地なため遠方との調整が難しく、同じ活動ができない場合がある。
- 酪農や漁業の商品のPRが不足しており、ブランディングが必要。
- 観光の促進が必要で、宿泊施設や体験型観光の提供が不足している。
- 住民が集う場所や交流の場が不足している。
- 行政サービスの説明が難しく、高齢者の理解が得られない。
- 空き家や町内施設の利用が不足しており、誰もが利用しやすい環境が求められる。
- 地域活動への参加が不足しており、地域貢献意識が低い。
- 自然の価値への認識や地域資源の活用が不十分。
- 川を活かしたまちづくりが進んでおらず、水辺の活用が不足している。
- 町民のイベントや行事への関心が低い。
- 保健師への相談が難しく、身近な存在としての役割が不足している。
- 活動拠点や行事が中央に偏っており、地域全体へのアクセスが不十分。
- 交通の便（バスの本数が少ないなど）が悪く、不便を感じている。
- 障がい者の参加や支援が不十分。
- 若者が戻ってこない。魅力が不足している。
- 介護サービスの料金が高額で、負担が大きい。
- 観光資源の活用や宿泊施設の整備が不足している。
- 新たな活動への興味や後継者の不足に不安を感じる。
- 居住地が点在しているため、自然な交流は生まれにくい傾向がある。
- 顔見知りも多いのでプライバシーを守りながら困りごとに対応していくという手立てをとるのが難しい。

④ 活動をする上での悩みや課題

- 人員増加が必要だが介護担い手不足で充足できていない。
- 活動拠点の耐震性や雨漏りの問題があり、数年後には別の場所を探さなければならない。
- 現在の運営費は会費等収益で賄われており、町の助成はない。
- 活動は高齢者や障がい者、外国人技能実習生の居場所として機能しているため、財政支援が必要。
- 高齢化に伴う健康管理の問題も存在する。
- 地域活動支援センターの利用者が不足しており、必要な方々がサービスを受けられていない。
- 高齢者や障がい者の居場所やグループホームが不足している。
- 災害時の備品や設備の経費が必要。
- 手話講師が不足している。
- 会員の高齢化や少人数での活動が多い。
- 会員の偏りや減少も課題となっている。
- 活動従事者の不足や講座の調整の難しさも問題。
- 交通の便が悪く、会員の移動手段の課題がある。
- 現在の建物には修繕が必要な箇所が多い。
- 活動場所としての必要性や利用者の幅広さを考慮した建て替えが必要。
- 高齢者だけが使える場所のイメージを払拭し、若い世代にも利用される場所にしたい。
- 困窮者との接点を持たず、支援的なアプローチに至っていない。
- 免許返納や交通機関の不便から孤立する会員がいるため、対策が必要。

⑤ 町の事業（施策）に関する現状認識や課題など

- 認知症サポーター養成やフォローアップ研修が不足しており、認知症の周知啓発も不十分。
- 青少年プラザの利活用に関する進捗状況が気になる。使われないパソコン等を置いているのであればもったいない。
- 福祉施設運営費補助金の継続を希望。
- 福祉牛乳の配布活用や郷土資料館の整備などの施策が必要。
- 手話奉仕員養成講座の効果や身体障がい者手帳保持者のサポート。
- 町内の介護従事者不足に対する取り組みや福祉サービスの周知啓発の必要性。
- 防災協会への補助の継続。
- 高齢者の役割や長期的な高齢者対策（ビジョン）の計画を策定する必要がある。
- 現在借りている建物の解体と移転の心配。
- 「まちづくり助成金」は最大3回までとなっているが、公益性が高く継続して活動している取組に対しては、持続的な支援をしてほしい。
- 高齢者への伝わりやすい情報の発信をするべき。

今後の活動について

⑥ 団体の今後の活動・新しい取組予定や新しい事業展開

- 建物の延命工事を検討中。
- 農福連携の取り組みを行っている。
- 男性会員向けの料理教室が好評で継続する。
- 独居会員に配食サービスを提供している。
- 体操の出前サービスを提供（会員以外も対象）。
- 他団体との共催イベントを開催。
- 法人格の取得については将来的な継続が難しいと考える。
- 現在の事業や委託業務を継続する。
- 重度障がい者の増加に備え、就労の場を維持したい。
- コロナで自粛していた活動再開を進める。
- 講演会等を開催し、会員を増やす取り組みを行う。
- 生活困窮者への権利擁護事業の体制整備を考える。
- 利用可能な介護施設の見学を通じて情報発信を行う。
- 啓発事業を継続し、必要に応じて新たな施策を検討。
- 会員減少傾向に対し、高齢者に魅力的な事業を展開し、会員増を目指す。
- 地域課題の把握を目指し、活動範囲を広げていく。

⑥ 団体の今後の活動・新しい取組予定や新しい事業展開

- 現在の取組を定期的・持続的に展開し、広く地域に認知されることを目指す。
- 移住希望者向け住宅の利用状況を把握しPRを行い、地域交流を促進する。

⑦ 団体が思い描く町や地域の理想の姿

- 地域との交流を強化し、障がい者も含めて安心して暮らせる町づくりを目指す。
- 町内会を基盤としたまちづくりを推進する。
- 避難訓練の充実と、避難後の楽しめるイベントの提供を目指す。
- 地元の知識や能力を活かしたイベントを開催し、行政職員も参加する地域づくりを促進する。
- 歩行や自転車で利用可能な町づくりを推進する。
- 手話の普及を図り、ろう者も含めた地域住民のコミュニケーションを支援する。
- 都市における広場のような、様々な住民が日常的に互いに接点を持つことができるような空間が必要。
- 別海町は様々な施設が充実してきているので、その中で異世代が必然的に交流するような仕掛けが必要。
- 助け合いの文化を育み、安心して生活できる地域社会を目指す。
- 徒歩での移動を推奨するなど、目的地以外の部分にも興味を向けてもらえる仕組みづくりも大切だと考える。
- 詐欺被害の防止や街の明るさを提案し、安心できる町づくりを目指す。
- 地域住民の助け合いや犯罪防止を促進し、安全なまちづくりを目指す。
- 働き世代の目標設定や子育て支援、高齢者の生きがいづくりを通じて、全世代が生き生きとした生活を送れる町を目指す。
- 事故のない安全なまちづくりを目指す。

⑧ 活動の課題解決のため必要となる町の支援

- 支援員の補充。
- エアコン設置補助。
- 新しい活動拠点の提供と、旧施設の保存。
- 運営費の補助を求める。
- 共生型事業の支援とコーディネーター配置。
- 町イベント時のテント設置作業支援。
- 手話講座の継続と定期開催。
- 地域コミュニティの充実。
- 免許返納に伴う移動手段の拡充。
- 介護情報提供の充実。
- 拠点の整備と町バスの運行支援。
- 安定した補助金の助成を希望。
- 全町民を対象とした拠点の設置。(子どもから高齢者までぎっくばらんに会し、雑談し遊べ、立ち寄りやすく落ち着ける場所づくり)
- 事業への予算確保と老人室の設置。
- 託老事業補助金の制度改善の要望。
- 拠点設置や交通手段の確保の重要性の認識。
- 安定した補助金の重要性の強調。
- 特に支援が必要な個人や家庭に対して、地域団体が直接アプローチをかけるのは難しい状況があるため、行政の関与がほしい。
- 拠点整備と老人室の必要性の再確認。

⑨ 町の施策に期待することなど、各事業（施策）に関するアイデア

- 誰でもできる仕事（内職のような）が提供できる場所。
- 遊歩道やサイクリングロードの整備。
- 自転車ヘルメットの助成。
- 高齢者向け遊具やスポーツ事業。
- 障がい者週間に作品展開催。
- 町の会議等へのコーヒー宅配。
- 手話講座の継続と定期開催。
- 身体障がい者向け町の冊子。
- 休日での飲食店不足に対する町の補助検討。
- 在宅介護相談窓口の支援。

⑨ 町の施策に期待することなど、各事業（施策）に関するアイデア

- 防犯協会との協力維持。
- 免許返納高齢者向け乗り合いタクシーや活動事業への支援。
- 地域と行政が連携して活動することで、より効果的に課題にアプローチできたり、人的資源が活用できたりする面があるのではないかと思います。
- ボランティア仲間との交流場所が必要。
- 行政のもっている情報やノウハウと、地域が得意とするフットワークの軽さや柔軟な組織活動形態が合わされば、課題を抱える家庭や個人に対して必要な支援が届きやすくなるのではないかと。
- まずは、行政と地域団体とで一緒に課題を見つめたり話をしたりする機会があれば良い。

その他自由意見

⑩ その他意見・要望

- 実のなる木の収穫に関する指針や対応策の必要性
- ふれあいの家裏の「鳥獣の碑」の安全性に関する懸念（地震や子供の集まり場としてのリスク）
- ボランティア活動への支援制度の必要性。
- 町のパンフレットを役場等に置いて町民への情報提供の要望。
- 子供たちの少年団活動や部活動への支援強化を手厚くしてほしい。（経済的支援や遠征費補助など）
- 公共施設の過剰な設置や類似施設の削減の検討。
- 子供向けイベントの増加や魅力的な施策が必要。
- 高齢者の病院内での待ち時間に畳の小上がりのような休憩スペースの設置要望。
- 社会福祉協議会の介護事業所の統一化に関する提案。
- 地域への交通手段不足による参加困難の解消策や、自家用有償旅客運送事業所の運転者への支援検討。

現在の状況について

① 団体の現在の活動状況について

- 少子化でスポーツ離れが進んでおり、大人も子供も競技人口が減少している。
- 団体競技のチーム編成が困難になり、チーム合併をするところも増えている。
- 町教育委員会と各学校で月1回の情報交換や研修会を実施。
- 地域・学校・家庭・行政が一体となり、社会教育や学校教育の充実を図るための取り組みを進めている。
- 各地域の文化協会や子ども会では高齢化や少子化の影響があり、新たな加入者が少ないなどの課題がある。
- 少子化、競技人口の減少がこのところ顕著に表れている。
- 新たな事業やニュースポーツ・パラスポーツの導入など、柔軟な対応が求められている。

② 別海町の良いところ（魅力や特徴）

- 自然が豊かで、農産物、海産物など特産品の質が高い。
- スポーツ施設利用料が高校生以下は無料で、かつ大人も近隣市町より安く利用しやすい。各種設備の充実している。
- コミュニティ・スクールを通じた地域と学校の連携が強み。
- 「学びの木」を軸として、すべての町民が自分らしく学び続け「輝く笑顔」や「豊かな心」で生活する姿を目指した教育を推進するところに特色がある。
- 生涯学習センター「みなくる」での活動が充実している。
- 近隣に比べ、福祉関連の補助や教育関係等が手厚く、イベントも充実している。
- 町の特性を活かした授業を受けられる。
- 子育てがしやすく、習い事や部活動の参加のしやすさにも繋がっている。
- 地理的な利点として、気候の安定、観光資源の豊富さが挙げられる。
- 自然環境、豊かな食文化、人々の温かさなど、地域の魅力が多岐にわたる。
- 公共施設の充実と地域のつながりが強み。子育て支援やスポーツ施設の利用条件が好評。
- 各種少年団活動等の子どもの活動場所や選択肢が多く環境が充実している。
- 漁業や酪農などの産業が盛んで、美味しい食べ物が豊富。

③ 別海町の物足りないところ（気になるところ）

- 魅力発信が不足し、宿泊施設や飲食店が不足している。
- 街中のにぎわいが不足しており、ファミリー層が街中で集まる機会が少なく、活気に欠ける印象がある。
- 福祉のまちとして活動する一方で、施設内の職員の働きやすさや賃金が懸念される。
- 地域素材を十分に活用しきれていないところ。
- 交通の不便や日曜日の休業店が多く、商業や観光が活性化しきれていない。
- 各地区の案内板が不足している。
- 観光の充実や施設整備が必要とされている。
- 宿泊施設が少なく、大きなイベントが開催される際も中標津町等に宿泊する状況。全道規模の大会の誘致は難しい。
- 町の政策の透明性や具体性が不足している。
- 子どもや地域の交流の場が少ない。
- 学習環境の充実や娯楽施設の整備が不足している。
- 特産品の販売場所や観光資源の活用が求められる。

課題や問題点について

④ 活動をする上での悩みや課題

- 町や学校との協力体制の更なる整備。
- 施設や設備の老朽化が喫緊の課題。
- 新規会員が少なく、活動予算にも限界がある。
- 公民館の視聴覚設備が必要。
- サークルの補助やアドバイスの要請が不便。
- 町の歴史や地域文化の継承が危機に瀕している。
- 役員のなり手不足や世代交代に課題がある。
- 新型コロナウイルスの影響で行事が中止され、上級生の活動が下級生に伝わりにくくなった。
- 活動の合理化と自主性の強化が求められる。
- 地域の協力体制と競技人口の減少が課題。
- 競技の多様化にもかかわらず、会員数の減少や事業への参加者減少が顕著。

⑤ 町の事業（施策）に関する現状認識や課題など

- 周年イベントの企画が進行中で、町の協力が必要。
- 宿泊施設の数と規模が多くないため、大人数の受け入れには向いていない。
- 町民参加型のステージショーやコンサートの開催を提案。
- 施設整備には人口減少を考慮し、費用対効果を重視してほしい。
- 子育て支援や地域活性化について、町の取り組みに関する情報不足。
- イベントの増加やお祭りの屋台の数の増加、地域食堂の支持など、地域交流の場を充実させる提案がある。
- 特産品を購入できる場が少ない。
- スポーツ施設の充実、スポーツ合宿の受け入れ条件の改善が求められている。

今後の活動について

⑥ 団体の今後の活動・新しい取組予定や新しい事業展開

- 学習環境整備を地域と連携して推進したい。
- 部活動の地域移行について協力していきたい。
- 各地区とのコミュニケーションが図れる場があれば良い。
- 新規会員の加入促進や地域外イベント参加、他地域との交流を促進する。
- 年に一度の絵画展やトークショー、交流サークルの設立などのイベントを開催する。
- デイサービスへの訪問が制限される中、DVD配布や合同演奏への参加を検討する。
- 子供会の活動は親会のイベントへの協力に限定し、ジュニアリーダー組織との連携企画を考える。
- 高校生音楽フェスやキャンプ、防災キャンプなどの参加を促進する。
- スポーツ情報発信や地域行事へのボランティア参加など、スポーツの実現に向けて努力する。
- ニュースポーツやパラスポーツを通じた交流会を新たな事業として開催し、様々なスポーツを取り入れて実施していく。

⑦ 団体が思い描く町や地域の理想の姿

- すべての世代が活気ある生活を送れるまち。
- 学びの木を軸にした生涯学習を推進し、地域と学校の連携を強化。
- 若者の参加とリーダーシップ育成を重視。
- 未来の教育への投資と情報発信の多様化。
- 子ども達が主体的に活動できる環境づくりと大人の指導者の育成。
- 安全で魅力的な暮らしを提供し、地域交流と活動の促進。
- 酪農を中心とする発展、若者の地元への定住促進。
- 若い人たちが積極的に活動し、高齢者がバックアップする姿。
- 年齢に関係なく充実した生活ができる地域づくり。
- 子ども達が地元を愛し、ここに帰ってきたいと思えるような町。
- 中高生の交流や地域の一体化を促進し、豊かで持続可能な街づくり。

町の実現への希望について

⑧ 活動の課題解決のため必要となる町の支援

- 課題解決には施設や予算よりも、団体の会員の熱意が重要。
- 少子化が進む中、特に子どもへの支援が重要。
- インターネットでの施設利用申込が便利になった。
- 老朽化した施設の改築・整備。
- 施設の管理責任の明確化が求められる。
- コンサートなどの入場料を無料にして、会場使用料を下げることに感謝。
- 子どもの指導者や育成者の後継者不足を懸念し、町からの支援が必要ではないか。
- 子ども達の活動場所提供と指導者の能力向上の必要性がある。
- 町出身のスポーツ選手の活躍が増える中、スポーツ活動への支援と施設の改善が望まれる。

⑨ 町の施策に期待することなど、各事業（施策）に関するアイデア

- 新しい文化団体の促進には、公民館講座の開催や地道な努力が必要。
- 生涯学習センターでの子ども向けキャリア教育の重要性を感じる。
- 施設や機材の利用料のわかりやすさが求められる。
- まちづくりには人づくりと地域づくりが不可欠。
- 少子高齢化への対策が急務であり、施設の移設やサービスの充実が求められる。
- 行事と子供団体の調整による、子どもが参加しやすい仕組みづくり。
- コミュニティの必要性や子供会の役割の周知が求められる。
- 各種スポーツの全道規模の大会の誘致。それに伴う各施設の改築・整備。
- 住民の意見をより反映させる機会の増加。
- 他団体の野外イベントなどスポーツイベントの拡充。
- 学校教育に加えて中高生向けの事業やイベントの増加が期待される。
- 地域イベントや交流の場の拡充が望まれる。

その他自由意見

⑩ その他意見・要望

- 部活動の地域移行に伴う交通負担の増大や公共交通機関の環境整備をお願いしたい。
- まちづくりにおいて、地域づくりと人づくりが重要であり、少子高齢化対策や生活インフラ整備が急務。
- 「べっかい」を誇れる故郷に。地方に進学しても戻りたくなるようなまちづくりを切に願う。
- 貴重な文化施設の移設や観光地の開発を提案する。
- 地域のニーズに応じた施策や支援の充実が求められている。
- ふるさと納税や補助金を活用して子育て支援や若者の事業支援に役立ててほしい。
- イベントや施設のマンネリ化を避けるため、別海ならではの新たな形のイベントとしてもいいのではないかな。

まちづくり関係団体のまとめ

現在の状況について

① 団体の現在の活動状況について

- 会員が連携して事業を行っている。
- ICT 化の進展と業務増加により、後継者の負担が増し、事業の見直しが進められている。
- 少子高齢化や転居により会員が減少し、定数を下回っている状況が続いている。
- 若年層の力が必要な場面も多いが、会員の確保が難しく、他町で就労している会員も多い。
- 高齢化による組織の体制維持が困難で、発展的解散が予定されている。

② 別海町の良いところ（魅力や特徴）

- 住民は素朴でまじめ。自然環境が豊かである。
- 海産物と乳製品が自慢。地域は分散しているが、まとまりがあり、地域活動が盛ん。
- 山はないが、海や川、広大な大地と空があり、水に恵まれている。
- 四季があり、蜃気楼も見られる。野生動物も見られる。
- 一次産業が基盤で、乳製品や海産物などがとても美味しく、小さい町であるが住みやすい。
- 酪農や漁業といった食に対してとても恵まれている。
- 人工の光が少ないため、星空がとてもきれいに見える。

③ 別海町の物足りないところ（気になるところ）

- 面積が広く、会議や事業の参加の移動負担が大きい（時間、交通費）
- 飲食店や宿泊施設が少なく、観光客が足を止めにくい。
- 集落が分散し、各地区のリーダーの顔がなかなか見えない。
- 道路の整備が必要であり、医療体制や人口減少も課題
- 若者が定着したいと思える産業が少ない
- 学校のプリント電子化など、IT 化が進んでほしい。
- 主要道路脇や農家地区などで空き家が多い。
- 人口の減少により、街並みも寂しくみえる。

課題や問題点について

④ 活動をする上での悩みや課題

- 会員減少と活動実践者の固定化が課題であり、後継者の確保と事務局員の補充が必要。
- 事務局の後任が見つからない。
- 会員の負担が大きく、限られた会員での活動が行われている。
- 報酬や費用弁償の見直しや必要性の低い活動を見直しなど、負担軽減を図り、受け入れ環境の改善が必要だと感じる。
- 農業全般に関する課題や解決方法についての現状認識が必要。
- 近年の飼料・資材等の高騰や新規就農者の確保についての課題を解決する方法を検討する必要がある。
- 町酪農研修牧場のあり方や町職員、農協職員の役割分担について。

⑤ 町の事業（施策）に関する現状認識や課題など

- 地域や支部からの多大な支援がある。
- 若者の地域定着や産業育成が必要。
- 地域おこし協力隊などの若い世代を取り込み新しい発想や取組に繋げる事は良い事業である。
- 農業業産品のブランド化、差別化を今後も強力に推進してほしい。
- 野生動物が多くなり、危なくなったので、安全に道路を通行できるように見通しの良い道にしてほしい。

今後の活動について

⑥ 団体の今後の活動・新しい取組予定や新しい事業展開

- 会員の加入促進（活動への参加協力）。
- 関連映画の鑑賞会。
- マスコミ等を利用した会員確保のための PR 活動が必要。

⑦ 団体が思い描く町や地域の理想の姿

- 地域住民の関心維持が不可欠。町民全体から意見が出ることが理想。
- 災害対策が整い、若者の雇用機会が増えることで地域が活性化する。
- 安心して暮らせる街づくりと、若者が地域貢献できる環境の構築が必要。
- 人と人のコミュニケーションが必要な活気のある町づくり。
- 子どもから若者まで、地域を誇りに思える環境を提供することが理想。

町の取組への希望について

⑧ 活動の課題解決のため必要となる町の支援

- 事務局長の後任の確保を支援してほしい。
- 会員募集 PR 活動の支援。
- 農業や漁業関連団体などとの連携を広げたい。
- 災害時のために職員や会員が水や食料、携帯トイレなどを備蓄する支援が必要。
- 財産管理に問題点があるため、解消してほしい。
- 非課税世帯だけではなく、一般の住民世帯にも何らかの補助があると良い。
- 別海町に住むメリットを大きくし、若い世代の定着を目指すための支援に力を入れてもらいたい。
- まちづくり補助金の充実とリーダー育成支援。

⑨ 町の施策に期待することなど、各事業（施策）に関するアイデア

- 管内住民大会への参加を増やすために広く呼びかける。
- 北方領土返還への関心は高いが、意思表示の機会が限られている。
- イベントや北方領土サポーター登録を通じて啓発活動や事業参加の機会を提供する。
- 地域の催しでの団体活動や移住者増加に向けた取り組みを行う。
- 農業は気象に左右されるが、温暖化に対応した試験栽培を検討する。
- 高校農業クラブや幼稚園・小学生による地元作物栽培を通じて郷土愛を育む取り組みも提案される。
- 給食費無償化や医療費のサポートなど、子育て世帯としては助かっている。

⑩ その他意見・要望

- 共働きの子育て世代に対する未満児保育の受け入れ充実と、仕事と育児の両立を支援する環境整備が必要
- 障害者の雇用拡大やオープンポジションでの就業、一般職と同等の雇用体制整備が重要
- 酪農を主たる産業として 90 年以上の歴史があり、現在の産業と景観を後世に継承するために、職員のアイデア施策に期待する。
- 町民にたくさん意見等を聴いてほしい。

現在の状況について

① 団体の現在の活動状況について

- 自主活動がコロナ禍で休止中。会員は青年会や別地区に直接加入している。
- 青年会は地域行事には参加しているが、地区としての参画は現在なし。
- 学園への食育出前授業や地域振興・食育活動を行っている。
- 既存事業の継続と部員数の減少に伴い、効率的な事業展開に試行錯誤している。
- 部員の高齢化や子育て世代の忙しさにより、女性部活動への参加が減少している。
- 農家戸数の減少や SNS の活性化により、多様なグループ活動が展開され、女性部員が減少している。

② 別海町の良いところ（魅力や特徴）

- 北海道らしさを表現した景観・環境が特徴。
- 施設が充実しており、学校のバスも充実。
- 広大な大地と美味しい乳製品、海産物。
- 酪農業と漁業が共存している。
- 一次産業が充実し、海産物や牛乳製品が美味しい。
- 見渡す限り牧草地が広がり、自然が豊か。
- 漁業と酪農が盛んで、美味しい食べ物が楽しめる。
- 恵まれた自然と広大な土地がある。

③ 別海町の物足りないところ（気になるところ）

- 景観や環境が観光魅力や価値としては認識されているが、その評価や意識は一般的ではない。
- 障害の子供への支援が必要。
- 宿泊施設の不足。
- 飲食店が少ない。
- 酪農・漁業の魅力を本気で伝えられていない。
- 人口流出や後継者不足が酪農や漁業など基幹産業に影響している。
- 車を持っていないと移動が難しい。
- 観光資源は豊富だが、宿泊施設の不足で観光客が町を通過するだけの可能性がある。

④ 活動をする上での悩みや課題

- 若者や行政に対する受け皿など、地域活動に関心がある人々に対する支援が必要だが、人口減少により地域活動の負担が増大している。
- 就農するにあたり、初期費用が高額になる。
- 子供に関する活動を優先する状況があり、自分自身を主体とした余暇活動に注力できないような状況が見られる。
- 一度団体・組織がなくなると再度組織化することが難しいことは容易に想像ができ、組織の継続可否について課題意識を持っている。
- 後継者もなかなか出会いの機会が少ない。
- 和牛関連の支援が不足している。
- 飼料や資材の高騰が経営を圧迫している。
- 新規就農や後継者の確保が課題となっている。
- 町内の牧場や農業関連施設の状態や運営方法についての意見交換が必要。
- 町職員や農協職員に情報共有を期待しており、基幹産業の衰退をもっと考えて行動を起こしてほしい。

⑤ 町の事業（施策）に関する現状認識や課題など

- 地域団体での活動として、学校や地区周年記念の作業を担当している。
- 学区や学校の整理に関する議論が進行中であるが、中心的な話題だけでなく、周辺課題を含む影響について町としての想定や、検討の機会・期間が必要であったと感じている。
- コミュニティースクールでの決定には関連する住民団体の代表も参加しているが、周辺課題や影響についての検討機会が不足している。
- 産業祭や和牛共進会の再開、ふるさと納税の企画化など、地域の活性化に向けた取り組みが進行中。
- 後継者の既婚率の低下。
- 子供手当や出産手当の充実が評価されており、今後も継続してほしい。
- 酪農女性の交流イベントが楽しく交流できるものにしてほしい。

今後の活動について

⑥ 団体の今後の活動・新しい取組予定や新しい事業展開

- 青年団体が解散を予定している。会員数の減少や傘下団体の減少が背景にある。現会員・過去会員に説明を行い、解散についての内諾を得る予定。
- 町のこども食堂への積極的な参加を目指す。
- 地元レストランとのコラボ商品を作り、畜産物・乳製品の消費拡大を図る。
- 周年の記念式典を予定している。
- 女性農業者の交流の活性化や他地区のＪＡ女性部との交流会の開催。

⑦ 団体が思い描く町や地域の理想の姿

- 産業が活発で関連産業も発展することにより、地域福祉や観光が促進され、人々を引き寄せる魅力ある地域に。
- 幅広い世代が町の未来を語ることができる。
- 酪農を継ぎたくなるような魅力的な町。
- 若者が多く、子供が戻ってくる地域。
- 別海町のふるさと納税で注目が集まっており、今後さらに観光客が集まる町になってほしい。

町の取組への希望について

⑧ 活動の課題解決のため必要となる町の支援

- 若者の集まる地域づくりと若い女性の働き場所の支援。
- 食育活動への支援。
- 託児や保育園への送迎依頼ができるシステムの導入を希望。
- 電気代、水道代、灯油などへの助成。

⑨ 町の施策に期待することなど、各事業（施策）に関するアイデア

- 婚活イベントや若者向けイベントの開催。
- 町外で牛乳・乳製品のアピールイベントへの参加と脱脂粉乳の消費拡大に取り組みたい。
- 高校の酪農経営学科で酪農の勉強だけではなく、自由な生活スタイルや、努力次第ではたくさん稼げる職業であるといった魅力の部分を強く伝える。
- 購入飼料に対しての補助金を増やす。
- 研修牧場の現状をもっと発信する。（ポスターやＳＮＳなど）
- 人口減少や基幹産業の衰退をもっと真剣に考えて、行動を起こしてほしい。

⑩ その他意見・要望

- 地区で離農が増え、社会減を実感している。
- まとまりのあった地域でも、住民同士の関わり方が変化している。
- 高齢者が病気や困難な家族を抱える場合、福祉行政と地域支援の境界が難しい。
- 地域でのフォローも住民数に比例して減少し、自助・共助・公助のレベルも下がってきている。
- 農家地区での生活続ける手段や農家地区の生活を諦める機会を行政が提供する必要がある。
- 持続可能な地域社会・まちづくりの課題として、今から取組検討を進めるべき。

町内会のまとめ

現在の状況について

① 団体の現在の活動状況について

- 町内会は明るく豊かな地域社会を目指し、加入促進を行っているが、高齢化や加入率の低下が課題。
- 加入者が少ない世帯があり、町内会の位置付けが明確にならないと、加入促進につながらない状況がある。
- 連合町内会としてコミュニケーションの場を提供し、住みよいまちづくりを目指す活動を行っている。
- 夏祭りや防災訓練などのイベントを通じて地域の交流を促進しているが、少子高齢化により行事が少なくなっている。
- コロナ対策の影響もあり、行事の実施が制限されていたが、徐々に戻りつつある。
- 少子化により子どもの数が減少し、スポーツ大会などの行事がまとまりにくくなっている。
- 若い世代の活気やまとまりが以前より感じられない状況がある。

② 別海町の良いところ（魅力や特徴）

- 広大な耕地面積。
- 日本一の生乳生産量。
- 育てる漁業の確立。
- 豊かな自然環境。
- 町政や役場の対応が親切で良心的。
- 広大な面積に海、山、川が広がる。
- 多様な産業と豊かな自然。

③ 別海町の物足りないところ（気になるところ）

- 若者の働く場所が不足している
- 商店の活性化が必要。
- 再生可能エネルギーの活用が重要。（特に町の酪農地帯で地球温暖化対策が必要）
- 商工部門の変化が必要。
- 注目を集める施設の設置が必要。
- 太陽光パネルの設置は良いが景観が悪い。
- 商業施設の不足。

③ 別海町の物足りないところ（気になるところ）

- 地域振興券の配布が少ない。
- コインランドリーが不足している。
- 遊びや宿泊施設が不足している。
- 飲食店や商店が少なく、若者や成人独身者の集える場所が不足
- 広いスペースのイベントが少ない。
- 交通の不便さが課題。（特に年配者の免許返納後の生活が困難）
- スマートフォンを使いこなせない年配者が買い物に困る。

課題や問題点について

④ 活動をする上での悩みや課題

- 役員の高齢化と担い手不足が課題。
- 町内会加入についての理解度が低く、役員の担い手不足が起こっている。
- 町内会活動への積極的な参加が少ない。
- イベントの実施が困難な状況。
- 町内会加入者の減少が見られる。
- 役員を引き受ける人が少なくなっており、高齢化が進行している。
- 同じメンバーで別々の組織として活動することが複雑化を招いている。
- 子どもの数の減少により、集まりが少なくなっている。
- 個人で行うことが多くなり、集団での活動が減少している。
- 役員の固定化や活動する人数の限界が担い手不足の要因となっている。

⑤ 町の事業（施策）に関する現状認識や課題など

- 町の事業の透明性が低く、地域の組織が情報を共有できていない。
- 一部の交付金に対する課題があり、運営について検討が必要。
- 農業や漁業、スポーツイベントが知られており、スポーツ部門の環境整備が必要。
- 公共施設に自動販売機がない。
- 公民館の設備・施設利用上で不便な状況がある。
- 子どもの医療費については好評。
- 空き家の有効利用や公園の利用が促進されるべき。
- 公共施設の老朽化が進行しており、維持補修が課題となっている。

今後の活動について

⑥ 団体の今後の活動・新しい取組予定や新しい事業展開

- 町有地の空き地の利活用を、町と考えていきたい。
- 防災に関する事業に積極的に関わり、地域防災マスター講習会などの受講を進める。
- SNSを活用して住民に情報提供やお知らせを行い、町内のコミュニケーションを促進する。
- 公民館内を活用し、住民が気軽に集える場所を提供するために、施設を複合的に整備したい。
- 能登半島地震を受けて、冬季の防災訓練を計画し、様々な手法を用いて実施する計画を立てる。

⑦ 団体が思い描く町や地域の理想の姿

- 自治体と自治会が共通の認識を持ち、まちづくりに取り組む。
- 街ではあいさつができ、イベントが開催され、多くの人が集まり、協力して実施する姿。
- 人の往来が多く、活気のある街で、子どもたちの声がたくさん聞こえる。
- 子どもや若者が将来ここに住みたいと思える地域づくり。
- 楽しい暮らしを提供し、活気ある人の集まる場所を実現する。

町の取組への希望について

⑧ 活動の課題解決のため必要となる町の支援

- 自動販売機の撤去が進んでおり、防災的な観点からも必要性を感じる。
- 公共施設の維持補修を進めるよう希望する。

⑨ 町の施策に期待することなど、各事業（施策）に関するアイデア

- 市街の空き地、特に町有地の利活用を町と考える。
- 能登半島地震の復旧が進まず、災害時の避難所運営や支援物資の調達などについて、町内会と話をしてほしい。
- 災害時の避難所での中心役割が不明確であり、対応策を模索するために、町内会と具体的なシミュレーションが必要。
- 公共施設の維持補修を進めるよう要望。
- 飲食店や宿泊施設の維持も求める。

⑩ その他意見・要望

- 太陽光発電施設に対する景観条例等の整備。
- 札幌市の「敬老健康パス」のような制度の導入。
- 能登半島地震の復旧が進まず、災害時の避難所運営をシミュレーションして対策を講じる。
- 高齢者の経験を生かし、働く社会を支えるシステムを構築してほしい。
- 町の条例改正やふるさと納税の使途などの情報提供を積極的に行ってほしい。町に関する情報がないため、良いか悪いか判断できない。
- 若者や高齢者の生活に必要な施設やサービスの充実を求める。
- 地元で消費する活動を増やしていかなければならない。
- 産業があって町がある。
- 子育て支援は、上士幌町を参考にしてみてもどうか。
- 地域内で買い物が完結しない。介護用品や子育て用品も地元で購入できない。
- 若い人が集まる店舗がない。飲食店の後継者対策が必要
- 「町内会加入促進条例」は、札幌市でもやっている。条例整備について検討してもらいたい。
- 地域センターは、葬儀もほとんどなく、利活用が課題で、公民館の利用率が高い。
- 飲食店の後継者を探すことも有効だと思う。(地域おこし協力隊など)
- 放課後子ども教室は助かっている。
- 年配の方へのスマートフォンの利用方法などは、寿大学などを利用し、積極的にアプローチするのが良い。
- 別海町の産後ケア(助産師)は人気であり、もっと活躍できる場が必要だと思う。
- 放課後子ども教室は助かっている。
- 町内会への加入促進や人口減少対策、地域資源の活用などを提案する。
- 防災組織については、地域の自主防災組織が機能しており、報告体制もしっかりしていると思う。

【参考】 調査実施団体

調査実施団体一覧

No.	区分	団体名
1	産業・経済	道東あさひ農業協同組合
2	産業・経済	中春別農業協同組合
3	産業・経済	計根別農業協同組合
4	産業・経済	北海道農業共済組合 ひがし統括センター
5	産業・経済	べつかい酪農女性プチサミット実行委員会
6	産業・経済	別海町・脱炭素を考える会
7	産業・経済	野付漁業協同組合
8	産業・経済	別海漁業協同組合
9	産業・経済	別海町森林組合
10	産業・経済	別海町漁業協同組合連絡協議会
11	産業・経済	別海町観光協会
12	産業・経済	別海町旅館組合
13	産業・経済	北海道中小企業家同友会くしろ支部別海地区会
14	産業・経済	別海町農業委員会
15	福祉関係	別海町交通安全協会
16	福祉関係	別海町防犯協会
17	福祉関係	別海町民生委員児童委員協議会
18	福祉関係	社会福祉法人別海町社会福祉協議会
19	福祉関係	別海町身体障がい者福祉協会
20	福祉関係	別海手話の会
21	福祉関係	特定非営利活動法人スワンの家
22	福祉関係	ボランティアサークル サンキューの会
23	福祉関係	社会福祉法人べつかい柏の実会
24	福祉関係	別海だんらんの会「大きな木」
25	福祉関係	別海町老人クラブ連合会

No.	区分	団体名
26	福祉関係	別海町在宅介護者と歩む会
27	福祉関係	カフェ日曜さんぽみち
28	福祉関係	別海町消費者協会
29	教育・文化・スポーツ	別海町スポーツ少年団本部
30	教育・文化・スポーツ	別海町教育委員会
31	教育・文化・スポーツ	別海町校長会
32	教育・文化・スポーツ	別海町スポーツ協会
33	教育・文化・スポーツ	別海町ママさんバレーボール協会
34	教育・文化・スポーツ	別海町軟式野球連盟
35	教育・文化・スポーツ	別海町子ども会育成連絡協議会
36	教育・文化・スポーツ	別海町文化連盟
37	まちづくり	自治推進委員会
38	まちづくり	西春別駅前地区まちづくり委員会
39	まちづくり	千島歯舞諸島居住者連盟別海町支部
40	まちづくり	別海町グリーンツーリズムネットワーク
41	まちづくり	根室北部消防事務組合 別海消防団
42	青年・女性関係	道東あさひ農業協同組合青年部
43	青年・女性関係	道東あさひ農業協同組合女性部
44	青年・女性関係	中春別農業協同組合青年部
45	青年・女性関係	中春別農業協同組合女性部
46	青年・女性関係	計根別農業協同組合青年部
47	青年・女性関係	計根別農業協同組合女性部
48	青年・女性関係	別海町青年団体協議会
49	町内会等関係	別海連合町内会
50	町内会等関係	西春別駅前連合町内会
51	町内会等関係	尾岱沼連合町内会